

令和2年12月27日(日曜)

読売新聞「読書委員が選ぶ2020年の3冊」

稲葉俊郎「いのちは のちの いのちへ」

選者:通崎陸美(木琴奏者)

読書委員が選ぶ

「2」

- ①サリー・ヒル編『14歳からの生物学』
(白水社、2800円 松田良一、岡本哲治監訳)
- ②田中ひかる著『明治を生きた男装の女医』
(中央公論新社、1800円)
- ③稲葉俊郎著『いのちは のちの いのちへ 新
しい医療のかたち』
(アノニマ・スタジオ、1600円)



通崎 陸美

木琴奏者

今年も、多くの人が自
身の身体や健康、また医
療について思いを巡らせ
たのではないだろうか。
①はオランダの教科書の
邦訳。日本の高校生物で
習うハエやカエルではな
く「ヒトの生物学」の基
礎がわかる。②は日本で
3人目の女医。「産科に限
り貧窮者無償治療」とし、
お産への医療介入の必要
性を知らしめた。③の著
者は医師。伝統医療、芸
術までを視野に、「から
だ」「こころ」「いのち」
を知り、その力を呼びさ
まそうと語りかける。